

サン・マイクロシステムズ

NTT 西日本がエコオフィス環境トライアルに
San Ray シンクライアントを採用

サン・マイクロシステムズは、NTT西日本の「エコオフィス環境トライアル」に、シンクライアントとして同社の「Sun Ray Virtual Display Client」が採用されたことを発表した。

NTT西日本グループは、環境保護活動と経営を融合させた「環境経営」を推進している。この取組みの一環として、NGN対応（IPv6）シンクライアントを活用したエコオフィス環境トライアルを2009年12月1日より開始した。本トライアルは、実際のオフィス環境にシンクライアント端末としてSun Ray約1,600台を導入し、「ワークスタイルの変革によるエコオフィス化」と「システムの省電力化によるエコオフィス化」についての検証を行うものである。

検証内容は、実際のオフィス環境においてNGN対応シンクライアント端末をIPv6ネットワークに接続・導入し、「Green by ICT」と「Green of ICT」の両面からトライアルを行う。「Green by ICT」の面からは、シンクライアントの特長であるホットデスクング（移動先のどこでも利用者のデスクトップ環境を再現できる機能）を活用して、オフィスのフリーアドレス化などワークスタイルの変革を行い、エコオフィス化に向けた検証等を行う。一方「Green of ICT」の面からは、仮想化技術等を活用したシステム構築により、システム自体の省電力化によるエコオフィス化を進めるとともに運用管理の評価検証を行う。

サンは、今回のNTT西日本によるエコオフィス環境トライアルの検証により、「環境経営」の推進においてシンクライアント導入による効果の重要性が実証されることを期待している。そして、NTT西日本全体へのシンクライアント本格展開に向けて引き続き支援していきたいと考えている。

サン・マイクロシステムズ(株) E-mail : sunray-jp@sun.com

NEC

NTT ドコモから運用支援システムを受注
～ネットクラッカー社のシステムを初導入～

NECは、NTTドコモから、運用支援システム（OSS：Operations Support System）を受注したことを発表した。これは、NECの子会社である米国ネットクラッカー社がNTTドコモに採用された初めての事例である。

NTTドコモは、2010年頃から世界中で開始されるLTE（Long Term Evolution）商用サービスに合わせて、IPネットワーク網の構築を進めている。今回受注したシステムは、このLTEネットワークにおけるコアネットワークと基地局を結ぶWDM（Wavelength Division Multiplexing：波長分割多重）網およびレイヤ2スイッチなどの機器を管理するものである。また本システムは、WDM網の設計を行うことと、設計効率の向上や設計品質の向上を図ることが可能だ。さらに、複数のベンダー機器が混在しているネットワークにおいても、最適なネットワークの構築を実現し、投資コスト（CAPEX）を抑制するとともに、これまでネットワークごとに発生していた帳票類の入力・管理作業の共通化を図ることにより、運用コスト（OPEX）の削減も実現するものである。

ネットクラッカー社は、通信サービス事業者向けのOSSで優れたノウハウと実績を持つ会社である。OSSは、通信サービス事業者がサービスを提供する上で、経営資源の効率化を図るために不可欠なシステムである。同分野は、NGNやLTEといった新たなネットワークの登場や新サービスの登場に伴い重要性が高まっている。今回の受注は、ネットクラッカー社のOSS製品と、NECがこれまでNTTドコモに対して行ってきた納入実績や豊富なノウハウ等が高く評価されたものである。NECは「今後も引き続き、NTTドコモの事業拡大をトータルソリューションで協力にサポートし、グローバル市場を含めた次世代モバイルインフラのさらなる発展に貢献していきます」と語っている。

NEC <http://www.nec.co.jp/press/ja/0912/0701.html>

今月の ソリューション事例

日本オラクル

「Tポイント」システムを刷新

～会員3,365万人の「Tポイント」システムを刷新～

日本オラクルは、カルチュア・コンビニエンス・クラブ（以下、CCC）が同社のデータベース「Oracle Database 11g」、「Oracle Real Application Clusters」、「Oracle WebLogic Server」等のテクノロジー基盤を活用して、国内最大級の共通ポイントサービス「Tポイント」のポイントシステムを刷新したことを発表した。

CCCは、月間のトランザクション件数が1億件にも及ぶ国内最大級のポイントサービスであるTポイントを運営している。Tポイントは、TSUTAYA、ファミリーマート、ブックオフ、ENEOS、ガスト、カメラのキタムラなど、様々な業種にわたる62社の提携先の約30,000店舗（2009年10月末現在）でポイントを取得・利用できるサービスである。Tポイントが使えるTカードの会員数は、提携先店舗でのカード発行や各社のポイントシステムとの統合が進んだ2007年頃から増加を続け、2009年10月末現在、3,365万人に達した。

CCCでは、このような会員数とトランザクションの急増に伴い、社会インフラとして通用する信頼性を備えたシステムへ移行するため、2008年6月、新ポイントシステム「MIPS (Mission critical Point System)」の構築プロジェクトを立ち上げた。

新ポイントシステムでは、高い信頼性と安全性、24時間365日のリアルタイムサービス、新たなビジネス展開に向けた拡張性を重視し、データベース構造やサービス機能の全面的な見直しとオラクルの最新テクノロジーの採用により、全面的な刷新を実施。新システムは、旧システムよりも少ないサーバ数とCPU数でありながら、2倍の性能をもつシステムとなった。またCCCは、サブシステムとして構築したりコメンド・システムや分析システムの活用も開始した。

日本オラクル(株) TEL : 03-6834-4836

EMC ジャパン

北海電工が社内NASを初めて導入

～運用管理を5分の1に削減～

EMC ジャパンは、北海電気工事（以下、北海電工）が社内共有ファイルサーバとして、EMCのネットワーク統合型ストレージ「Celerra NX4」を導入し、効率よく運用管理できるNAS環境を構築したことを発表した。

北海電工は、北海道を中心に電力設備や電気・機械設備の工事・保守、情報通信工事などを手がける総合設備企業である。道内全域に置かれた50ヶ所以上の拠点を、情報システム部員9名で統括している（2009年12月現在）。同社では、施工図面や帳票類、工事写真など、案件ごとに膨大なデータが蓄積され、報告書作成の元データとなるほか、管理・メンテナンス、将来の企画・設計、営業活動等に活用され、重要な資産となっている。これらのデータは、以前は本社内の比較的安価なファイルサーバに保存されていたため、頻繁に発生するディスク障害やデータロスなどのトラブルにより、復旧作業に大変な労力を割いていた。さらに大規模な拠点では、独自のファイルサーバを導入するなど、ストレージが社内に散在していた。そこで、堅牢で信頼性のあるファイルサーバの導入を検討した結果、Celerra NX4の導入を決め、本店のファイルサーバを統合し、2009年5月に1,300人を超える従業員向けにサービスを開始した。

Celerra NX4は、統合ネットワーク・ストレージ Celerra シリーズのエントリーモデルで、電源投入から15分で稼働可能、管理ソフトウェア「Celerra Manager」、ファイル・システム重複除外、仮想プロビジョニング、自動ボリューム管理、管理ツールの「Celerra SnapSure」などの機能が標準で搭載されている。北海電工では、1,500台のパソコンと30台のサーバを一人のIT管理者で運営管理しているが、Celerra NX4導入後は、トラブルが1件も発生すること無く、スムーズに運営できるようになった。

EMC ジャパン(株) E-mail : japanpr@emc.com

日本テラデータ

十八銀行が統合収益管理システムに「収益管理ソリューション」を採用

日本テラデータは、十八銀行（本社：長崎県長崎市）が同行の統合収益管理システムとして、新たにテラデータの収益管理ソリューション「Teradata Value Family (TVF)」を採用し、2008年10月より稼働、2009年2月には勘定系ホスト更改に伴う対応を行い、稼働を開始したことを発表した。

十八銀行は、収益性・業務効率性の向上を目指し、ボリュームを重視した業績評価体系から収益を重視した業績評価体系へと、経営と営業戦略の見直しを図ることを決定した。そのため、各取引や口座の情報を利用して、本部と各支店で適切なコスト管理やリスク管理を行うための情報システムの整備が重要な課題となった。そこで同行は、情報系ホストからの取引明細データおよび口座明細データを利用して業務利益算出やシミュレーションの処理を行う統合収益システムの構築を検討した結果、他行への豊富な導入実績と精緻な分析に優れた点を評価し、TVFを採用した。

TVFが提供するパッケージのTP（行内資金移転価格）計算、予算策定、原価計算を導入することで、同行の統合収益管理システムでは、個社別採算を重視し、収益性の指標をリスク経費控除後利益とすることが可能になり、顧客毎に精緻化された採算分析ができるようになった。営業店においては、Web経由で店別と顧客別の実績把握や各種のシミュレーションができる環境を構築した。店別予実進捗シミュレーションでは、自店の期中計画対比の実績把握だけでなく、目標達成のための渉外活動内容についてのシミュレーションが可能となった。また、個社別採算管理では、顧客の明細単位の採算性の把握と採算指標やセグメントを切り口とした順位別分析やマトリックス分析ができるようになった。

日本テラデータ(株) TEL : 03-6759-6151

H3C テクノロジージャパン

湘南工科大学がネットワークを再構築 ～ファイアウォールを内蔵した「S7510E」を採用～

H3C テクノロジージャパンは、湘南工科大学の構内LANの更新に伴い、10GE対応シャーシ型レイヤ3スイッチ「S7510E」がコアスイッチに導入され、本格稼働したことを発表した。S7510Eは、ファイアウォールモジュールを内蔵することができるモデルで、今回の導入はH3Cによる国内初の事例である。

ネットワークの構築にあたり、今回、湘南工科大学がコアスイッチに選定したのが、H3Cの10GE対応シャーシ型スイッチのS7510Eである。コアスイッチについては、4台あったコアスイッチを1台に集約し、外付けであったファイアウォールを内蔵させ、そこから直接ルータに接続するシンプルな構成を採用した。フロアスイッチには、ギガビット・レイヤ3スイッチ「S5500-EI」シリーズ、エッジスイッチについては「5100-EI」シリーズ、および10/100レイヤ2スイッチ「S3100-EI」シリーズが導入された。これらは、価格競争力が高く、パフォーマンスと品質の高さが評価され、2008年度ワールドワイドで初期不良率0.1%、市場故障率0.1%を誇る低故障率を実現している製品である。

導入にあたり高く評価されたのは、従来のスイッチと比較して消費電力量を10分の1以下に大幅削減を実現するH3Cのエネルギー消費効率の低さである。今回導入されたスイッチは、S7500Eシリーズ、および5500-EIシリーズに属し、同シリーズのS7506EとS5500-EIボックス型24ポートモデルと48ポートモデルは、独立系試験サービス会社Miercom（マイヤコム）の評価において「Miercom Green Certificate」に認定されている。また、S5500-EIボックス型24ポートモデルと48ポートモデルは、Gbpsあたりの使用電力において、競合製品との比較で、最大40%電力効率が高く、またS7506Eは、最大24%の電力効率を実現することが可能である。

H3Cテクノロジージャパン(株) TEL : 03-6278-0185